

ユリ部会設立40周年!!

生産流通部
渡邊 英城

「山香町花卉生産組合ユリ部会」の設立40周年記念式典が、シンテッポウユリ栽培者11名参加の中、4月20日に開催されました。



式典の様子

昭和53年に旧山香町でスタート（20戸・90a・3,713千円）したシンテッポウユリは、水田転作品目として推進した結果、昭和58年に最大55戸・500a・38,700千円まで拡大しました。

その後、露地品目特有の課題である、台風の影響を受けやすく収入が不安定な点から、生産の縮小が進んでいましたが、「誰もが参入しやすい環境づくり」を目指し、部会と関係機関が検討を重

ねて、JA山香町花き集出荷施設の整備（平成11年）や共同選花体制の構築による出荷調整作業の分業化（平成13年）に取り組み、産地の維持拡大に努めてきたところです。



出荷前のユリ

近年、定年帰農者による新規栽培者も増加し、水田畑地化品目として注目され、平成30年度には11戸・112aで栽培が行われています。ユリ部会では、設立40周年を契機に、育苗省力化対策実証圃や除草作業マニュアル作成等に取り組み、「定年帰農者が長く楽に栽培できるシステムづくり」を目指し、50周年を見据えた産地発展に取り組んでいます。

梅雨前にため池廃止工事完成

農林基盤部
灘波 悦史

国東市には約300箇所のため池があり、それらの多くが、江戸時代から明治時代にかけて築造されたものとされています。

このため、これら老朽化したため池の計画的な改修や、不要となったため池の速やかな廃止による防災力の強化が喫緊の課題となっています。

このような中、東部振興局では平成29年度に、改修のための調査測量設計を4箇所、用地測量を3箇所、工事を2箇所、不要となった池の廃止工事を4箇所実施しました。

廃止工事の内容は堤体をVの字に掘削し、水路を布設することで、貯水機能をなくし、決壊を未然に防ぐものです。

改修工事は工事期間が2箇年以上かかるので、まだ継続中ですが、廃止工事4箇所については、

平成30年3月に完成し、今回の梅雨を前に、防災効果の発現が見込まれます。



廃止工事が完成した国東市「新池」地区

農地集約化モデル地区活動の始動

農山漁村振興部
赤野 和恵

5月7日に別府市の農地集積・集約化モデル地区設定推進会議が開催され、集約化モデル地区として東山地区が選定されました。

東山地区には鶴見岳山麓の標高差のある谷沿いに小さな5つの集落が点在し、25年には5集落をまとめた集落営農法人「(株)東山パレット」が設立されました。地域の担い手として水田の農作業受託や農地管理を行い農地集積は徐々に進んでいます。10a未満の未整備田が広域的に点在しており効率的な農地管理が課題となっています。

5月10日には月一回開催されている法人役員会に、県農地中間管理機構、農業委員会、市、農協、東部振興局が出席し、利用権が設定された農地情報を基に地域の担い手ごとに色分けした圃場

図面を作成して現状把握するとともに、地域の課題の洗い出しや今後の進め方について意見交換を行いました。

今後は、地区の農業委員、農地利用最適化推進委員会を中心に担い手間の話し合いを進め、30年度中の集約化完了を目標に、定期的な情報交換を行いながら農地の集約化と営農計画等の作成を支援します。



色分けした地図を前に意見交換

国東こねぎトレーニングファーム5期生研修開始

生産流通部
原田 ゆうき

4月13日に国東こねぎトレーニングファーム（こねぎTF）で入講式が開催され、3組4名の5期生が農業研修をスタートしました。

こねぎTFでは、(公)国東市農業公社の専任講師が栽培管理の実践指導を行い、公庫・JA・県・市等の関係機関が座学講座の講師として経営や就農制度・税務等の講義を担当しています。また、大分味一ねぎ生産部会も研修生を支援しており、個人経営体と法人経営体のそれぞれが約一週間作業体験等する現地実習を担当しています。

大分味一ねぎ生産部会は参入企業と新規就農者の加入によって、産地拡大が図られ、既存生産者の意欲向上と生産性向上につながっています。国東支部では、1期生が就農する前には189百万円だった販売額が、平成29年度には390百万円

と、4年間で約2倍に増加しました。

これまでにこねぎTFでの研修を終了した1～4期生の中には部会トップクラスの単収の方もいることから、5期生にも大きな期待が寄せられています。入講式では5期生の方が「これから1年でも早く部会員として成績が上げられるように頑張っていきます」と意気込みを表明されていました。こねぎTFでは今後も、研修生の受入と育成により、味一ねぎの産地拡大・振興を図る予定です。



研修開始した5期生の皆さん

年田集落営農生産組合全国水土里ネット会長賞

日出水利耕地事務所
麻生 春治

杵築市熊野の年田集落営農生産組合（川野昭信代表理事、53人）が、農業農村整備優良地区コンクール（全国土地改良事業団体連合会主催）の中山間地域等振興部門で全国水土里（みどり）ネット会長賞を受賞しました。農地の集約や水田の整備、会社設立による若手後継者育成などの活動が評価されました。

同組合は、基盤整備を契機として、生産コストの低減や農場経営の安定化を目指し、平成20年に設立されました。平成21年には価格が安定している輪菊を栽培する「マムズガーデン年田」を立ち上げ、若手農家の雇用や育成も推進し、水田農業と施設園芸を並行する先進的な取組をしてきました。

表彰式は3月26日に砂防会館（東京都）で行

われ、川野代表理事に表彰状が授与されました。

5月1日、川野代表理事ほか理事2名が杵築市役所を訪れ、杵築市長に受賞を報告しました。川野代表理事は「今後は近隣の集落とも協力し、地域ごとの特徴を活かした農業をしていきたい。若手後継者も育てていく」と話していました。



杵築市長への受賞報告